

全会員の団結で  
爆音をなくそう

## 厚木爆同

【発行】

厚木基地爆音防止期成同盟

発行責任者 大波修二

事務所 大和市桜森3-5-3

フロント1F

TEL 046-240-7450

FAX 046-261-5615

bakudou@kanagawa.email.ne.jp

近代の憲法の発達の歴史を無視し、「憲法がその時の無謀な権力行使を制限する」「国民の幸福のために権力を縛っていく」立憲主義の精神を破壊しようとしているのです。具体的には「内閣が国民に知られた

の声は全く届きません。今年、安倍内閣は戦争ができる国へ向け、戦時立法を提出し本格的な憲法改正への動きを固める決意であり、自民党は公明・民主など野党6党に憲法改正案造りを呼び掛けていく姿勢を明らかにしました。その内容は「武力攻撃や災害時における内閣の権限を大きくする」目的を持っています。もし、仮にそうなれば私たちの「基地反対」「爆音解消」の声は全く届きません。

安倍内閣は戦争ができる国へ向け、戦時立法を提出し本格的な憲法改正への動きを固める決意であり、自民党は公明・民主など野党6党に憲法改正案造りを呼び掛けていく姿勢を明らかにしました。その内容は「武力攻撃や災害時における内閣の権限を大きくする」目的を持っています。もし、仮にそうなれば私たちの「基地反対」「爆音解消」の声は全く届きません。

今年、安倍内閣は戦争ができる国へ向け、戦時立法を提出し本格的な憲法改正への動きを固める決意であり、自民党は公明・民主など野党6党に憲法改正案造りを呼び掛けていく姿勢を明らかにしました。その内容は「武力攻撃や災害時における内閣の権限を大きくする」目的を持っています。もし、仮にそうなれば私たちの「基地反対」「爆音解消」の声は全く届きません。

今年、安倍内閣は戦争ができる国へ向け、戦時立法を提出し本格的な憲法改正への動きを固める決意であり、自民党は公明・民主など野党6党に憲法改正案造りを呼び掛けていく姿勢を明らかにしました。その内容は「武力攻撃や災害時における内閣の権限を大きくする」目的を持っています。もし、仮にそうなれば私たちの「基地反対」「爆音解消」の声は全く届きません。

安倍内閣の暴走を許さず  
違憲状態の爆音解消を！

厚木基地爆音防止期成同盟委員長 大波修二

くない内容は秘密にする」「その秘密を知ろうとする人たちを刑務所に入れる」「盗聴法を制定して国民一人一人のプライバシーを国は見ることでできる法律を制定する」「憲法に軍事裁判所の設置や自衛権の発動や国防軍の保持を明記する」このような内容になると言います。

しかし、新聞の世論調査でも明らかに、国民の意向は、わずかに5・8%しかないのです。国民が現在の内閣に望んでいるのは、日本経済を何と

かなように、憲法を改正すべきだという国民の意向は、わずかに5・8%しかないのです。国民が現在の内閣に望んでいるのは、日本経済を何と

## 「米軍機差止め」を勝ち取る

第四次厚木爆音訴訟団長 藤田 栄治



今年、厚木爆音が結成されて55年の節目の年になりますが、「爆音のない平和で静かな空を」と願い運動を続けてきた私たちにとって、素直に「新年おめでとう」と祝う気持ちになれない年明けになりました。

昨年12月の総選挙で自民党が圧勝し、安倍政権の継続を許す結果となりました。政治・経済・外交、どの分野を見ても、これまでの安倍政権の施策には、危機感、恐怖感を抱いてきましたが、総選挙で国民の信を得たばかりに、今後ますますこの路線を突き進んでいくことになるでしょう。

とりわけ特定秘密保護法の制定や集団的自衛権の行使、そして憲法改悪への一連の動きは、「平和と国民

とし、米軍は外国軍隊であり法律よりも条約が優先されると言いますが、例えば国内法を守らなくてもよいという日米地位協定があつても、「爆音は憲法に抵触するので直ちに飛行停止をしなければならぬ」という判決を勝ち取る必要があります。

現在、日本政府の米軍に対する異常な思いやりの考え方が貫いて貫かれています。それは裁判所の判決内容が「国は米軍機を差し止めるにはその支配は及ばない」というものです。日本は独立国であり、植民地でも米国の州でありませんから全く理解できません。この矛盾を何とかしましょう。

今年、東京高等裁判所の結審が言い渡される予定ですが、いっそう団結を強めて、我々を苦しめる体制を跳ね返すために頑張らしましょう。安倍内閣の暴走を許さず、違憲状態の爆音を解消しましょう。

## 厚木爆同のホームページを開設しました。(http://www.atsugibakudou.com/)



トップページに活動の予定や報告の概要、及び厚木基地に関する新聞報道のリンクを掲載しています。他にも会報のバックナンバーや関連資料等がありますが、今後皆様のご意見を頂きながら充実させていく所存です。アクセスは上記のアドレスを入力するか「爆同トップ」で検索すると最初に表示されます。

裁判勝利に向け、厚木爆同の皆さんの引き続きご協力をお願いします。



# 爆音訴訟勝利をめざし

## 厚木爆同活動記録 一

### 新たな爆同運動を

会員の声を活かす  
支部訪問会議開催

会員の声を爆同運動に活かすため、昨年7月から11月の間、支部訪問会議を行いました。出席会員からは「この爆音を何とかするため、爆同がもっと力をつけよう」「市民に対し丁寧でわかりやすい働きかけが必要だ」「いつでも爆同の

最新情報にアクセスできるホームページを開設してほしい」などの建設的意見が多く出されました。こうした会員の要望を一つずつ実現し、組織強化を図るとともに、新たにユニークな爆同運動を展開しましょう。



再構築された大和南2支部



活発に討論した大和北1支部

### 厚木を訓練拠点にするな

住民の命を脅かす  
オスプレイに抗議

昨年7月以降、MV22オスプレイの厚木飛来が連続しました。大和・綾瀬両市長から「飛来は認められない」との抗議が出されましたが、こうした地元の声を無視し続けています。

再三にわたるオスプレイの飛来

は、日本全土でオスプレイの飛行訓練を行うため、厚木基地を本土訓練の拠点とするものです。今後、合意違反の飛行実態を指摘し、オスプレイの沖縄配備撤回と厚木飛来中止を求めていきます。



判決内容をわかりやすく説明する弁護団



東京高裁控訴審に向かう原告団・弁護団

### 違法な爆音なくせ

「米軍機差し止め」めざし  
爆音訴訟控訴審へ



「自衛隊機差し止め」を勝ち取った一審判決

第四次厚木爆音訴訟は提訴以来6年半の歳月を経て、5月21日、横浜地裁で判決が出されました。その内容は「爆音は違法である」として損害賠償額を増額し、「自衛隊機の夜間飛行差し止め（22時～6時）」を命ずる画期的なものでした。

しかし原告団は「米軍機の飛行差し止めが認められない限り、爆音問題の解決はない」として控訴を決定し、東京高裁での闘いが続いています。厚木爆同は原告団と一体となって、「爆音のない静かな空を取りもどす」まで闘い続けます。

### 受信料の全額免除を

総務省・防衛省・  
関係自治体と交渉



# 統一自治体選挙 爆同推薦候補者

◎相模原市会選挙 4月12日投票  
◎大和・綾瀬・藤沢市会選挙 4月26日投票

今年4月に統一自治体選挙が行われます。相模原市議員選挙は4月12日投票、大和・綾瀬・藤沢市議員選挙は4月26日投票で実施されます。

この選挙に厚木爆同から四名の市議員候補が立候補することになりました。

基地・爆音問題に真正面から取り組み議員を一人でも多く生み出すことは極めて重要です。その強い意志を持って立候補した爆同会員四名の仲間の全員当選にむけ、皆様のご支持・ご協力をお願いします。



大波修二  
(無所属)



金子豊貴男  
(社会民主党)

相模原市議会(南区)(現・6期)



脇れい子  
(無所属)



二見昇  
(無所属)

綾瀬市議会(現・2期)

藤沢市議会(現・1期)

会員一人ひとりが「基地問題」や「安全保障問題」について理解を深めるため、爆同「平和講座」を連続的に開催しました。第1回は11月に「日米安保と日米地位協定」、第2回は12月に「秘密保護法と集団的自衛権」、第3回は1月に「厚木訴訟と厚木爆同運動」をテーマに行いました。今後も学習活動を強化していきます。



反オスプレイを訴え大和市内をデモ行進



「オスプレイは帰れ」湧き起る怒りの声



南関東防衛局前で怒りのシュプレヒコール



オスプレイ飛来に抗議する監視団

## 学習活動を強化

「基地安保問題」  
連続講座ひらく

テレビ受信料の全額免除にむけ、7月に総務省・防衛省交渉を行い、「放送受信事業の助成対象区域を見直す基準の作成を進める」との前向きな答弁を得ました。また8月には基地周辺自治体と神奈川県に対して要請を行い、「自治体としてもNHK受信料の免除区域や助成の拡大を求めており、引き続き要請していく」との回答をいただきました。全額免除を勝ち取るため粘り強く頑張ります。



受信料免除を要請した総務省交渉



安保問題を学んだ第1回爆同平和講座



# 「オスプレイと飛行訓練に反対する東日本連絡会」結成

車輿・情報共有・要請行動を強化

「オスプレイと飛行訓練に反対する東日本連絡会」発足総会が1月17日、連合会館（東京）で、関東及び静岡・山梨・長野・新潟各県から21団体の代表が出席し開催されました。

この連絡会は米海兵隊MV22オスプレイが沖縄・普天間基地に24機配備さ



オスプレイ飛来の問題点について報告する金子豊貴男氏

れ、訓練飛行が全国展開の様相を見せ始めていることから、東日本エリアで連絡組織を立ち上げ、情報の共有体制と、国及び自治体に対する要請行動を強化するものです。

総会では今後の取り組みとして、①米軍機オスプレイの飛行と配備計画、また自衛隊の配備計画を阻止するため、参加団体の連携を強化する。②国（外務省、防衛省、内閣府、環境省等）との統一交渉を実施する。③当該地域自治体に対し、要請行動を実施する。④情報連絡体制を確立し、オスプレイとその配備、飛行訓練等の情報の速やかな共有化を図る、ことを決定しました。

また連絡会役員として、厚木爆同からは大波委員長、第四次厚木爆音訴訟原告団からは藤田団長他2名が世話人に出選されました。

## 支部からこんにちは！

### 町田支部

厚木爆音防止期成同盟と訴訟団・弁護団の運動は、横浜地裁判決で、国家政府を追い込んだ。しかし「集団安保」の戦争と基地被害増大の危険が政治全般から強まり、九条改悪を許すならば爆同運動の不利と犠牲の増大は明らかである。

## 改憲反対の「民意」と行動を

事件の弾効と基地縮小を求めた10・21大集会以来、幾たびも、その「民意」は示されてきた。

辺野古新基地建設反対の現地座り込みも、さる12月22日で三九〇〇日

## ここが気になる

厚木基地の騒音というと、米軍の艦載機の騒音が問題とされるが、自衛隊機の騒音も多い。では、厚木の自衛隊はどんなものなのか、爆同のホームページのリンクで調べてまとめた。

基地正門看板は「米海軍厚木航空施設 海上自衛隊厚木航空基地」と書いてある。米軍は「施設」、自衛隊は「基地」と言っているのがおもしろい。

厚木に海上自衛隊基地が下総から移転して来たのが昭和四十六年、以後自衛

## 動かぬ行政を市民の手で動かそう

### ― 館野鉄工所墜落事故から50年 ―

去年は、「墜落事故から50年」でしたが、それに関する活動を報告しました。

町田では、昨年三月二十八日、町田駅

隊は拡充し、海上自衛隊の航空隊では最大・最重要な基地で、厚木にはいくつかの部隊が配備されている。

第四航空群は太平洋・日本海海域の防衛監視を任務とし、その第三航空隊はP3Cの部隊で海上の不審船・海中

## 厚木基地の自衛隊

の潜水艦の警戒、第四整備補給隊は航空機の整備補給、厚木航空基地隊は厚木基地の管理・航空管制、硫黄島航空基地隊・南鳥島航空派遣隊はそれぞれの基地の整備・管理をしている。

近くの公民館で爆同町田支部が市民集会を開き、ホール一杯の人を集めました。

館野鉄工所墜落事故に関しては、大和市としては、矢澤書記次長も加わったパネル展の他は殆どなく、爆同など四団体が慰霊実行委員会を作ったいくつかの行事をおこないました。

七月五日、生涯学習センターでの追悼実行委員会結成集会は、前田哲男氏の講演と、大和中支部会員尾形齊さん



神田香織さんの講演「哀しみの母子像」

51航空隊は航空機・機器の性能調査・パイロットの養成をしている。

61航空隊は全国の基地を結ぶ航空部隊で、人員・物資の輸送をしている。71航空隊は水陸両用機を保持し、海難救助をしている。

その他、航空管制隊、航空プログラム開発隊、システム通信分遣隊、情報保全分遣隊等が厚木にある。

新型対潜哨戒ジェット機P1配備、新型輸送機C-Xは、国産化をめざすが事故で配備が延期されている。防衛予算を拡大している安倍政権下、自衛隊の動きも注視しなければならない。

の事故当時の報告が行われました。それが尾形さんの遺言となってしまうしたが、三〇三号室は満員でした。

九月十三日、上草柳コミセン二階ホールでの追悼集会も満席で、館野さんの四男の義雄さん（唯一の生残り男子）の挨拶もありました。集会後、墜落現場に新たに建立された木碑前で追悼供養行事がありました。

十一月十四日、生涯学習センター大ホールでの追悼集会では、緑区米軍機墜落資料センターの斉藤真弘さんの報告、館野義雄さんの挨拶、神田香織さんの「哀しみの母子像」の講演があり、二百を超える人が集まりました。

現在、町田では事故の記念像を建立する市民運動、大和では慰霊木碑の再建（一度建てた碑は防衛省の指導で一時的撤去、正式手続後、再建します）、館野事故の学習パンフレット作成、現地の記念公園化を模索する市民運動が展開されています。

統一地方選挙が行われる今年、反基地・平和の活動をはっきりと推進する市政の確立にむけて頑張りましょう。